

2014（平成 26）年度 海外留学体験報告書

ノッティンガム大学（イギリス）

1. 留学中の活動詳細について

私は国際交流室の派遣留学制度を使い、2014 年度をイギリスにあるノッティンガム大学で過ごしました。この派遣留学プログラムは 4 月から始まり、春学期に大学準備コースを他の国から来た留学生と受講し、秋学期を大学の授業を現地の大学生と一緒に勉強するアカデミックコースを受講するといった内容です。留学生としてイギリスで生活することは簡単ではありませんでしたが、周囲からの支えがあったこともあり、とても充実した留学生活を送ることができました。今振り返ってみても、留学するという決断は間違っていなかったと強く感じています。

この留学は私にとって初めてのイギリス訪問だったので、ロンドンへ到着したときには、赤く四角い電話ボックスや二階建てのバスといった街の景色と、どんよりとした天候があまりに聞いていた話の通りだったことに驚きました。目的地のノッティンガムへはロンドンのセントパンクラス駅から電車で 2 時間ほどかかります。移動する電車の窓から見えた風景がとても美しく、まるで絵のようだったのをよく覚えています。そのような全く新しい環境でこれから始まる生活に期待が膨らむ一方で、知らない土地で果たして上手くやっていけるのだろうかと不安でした。しかし、そのような気持ちもすぐに消えることになります。

ノッティンガムに到着すると、まず日本から予約しておいた大学の寮へと向かいました。寮は私を含めた 5 人でひとつのフラットを共有するかたちになっており、共に生活したフラットメイトたちは専門分野・年齢・国籍もそれぞれ異なる留学生でした。彼らは同じようにノッティンガム大学の大学準備コースを受ける学生だったので、毎朝一緒に大学まで通学したり、近所にケバブを買いに行ったり、お互いのエッセイやプレゼンテーションをチェックしたりなどしてコースを通してお互いを助けあう事が出来ました。その結果、コースを修了した今でも連絡を取り合うほど良好な関係を築いています。

春学期に受講した大学準備コースでは、秋から始まるアカデミックコースでどのように勉強を進めればよいのかを学びます。例えばアカデミックコースの授業でエッセイを書かなければならない時、どこで文献を探し、どのような体裁で引用し、その際にはどのような単語を使うべきなのか、そしてどのようなエッセイの構造が効果的なのかといったことです。私はこれを語学のコースと聞かされており、英会話のような授業になるのだと思い込んでいたので、その想

像を大きく裏切る内容となっていました。私の場合、コースは合計で 20 週間ほどあり、10 週間ごとにエッセイ・面接・プレゼンテーションの試験がありました。この試験にパスできないと、次の段階に行けず、アカデミックコースへの入学が許可されないということで、この試験が上手くいかなかったために他の大学へ行くことを選んだクラスメイトもいます。

私は近畿大学で経営学部にも所属していたので、秋学期からのアカデミックコースはビジネススクールでマネジメント系の授業を受けていました。私が受講していたものは、先生が前に立って理論やケースなどを話すといったように、授業形態においては日本の大学のものとは大きな違いはありませんでしたが、友人のなかにはプレゼンテーションやディスカッションの機会が毎週あるという人もいました。私が感じた日本との大きな違いといえば、とにかく情報量が桁違いに多いということです。一コマ 60 分から 120 分の授業を理解するために読む文献も多い上に、パワーポイントのスライドを使いながら進められる授業は内容も大盛りという感じで、毎日終わる頃にはかなり疲れてしまいます。学期に 2 回あるディスカッション中心のセミナーでは授業では言及されていないことへの見解を求められる場面もあり、現地の学生と比べて自分の知識不足が恥ずかしくなる場面がしばしばありました。成績の評価方法は授業によって異なり、100%エッセイや試験というものもあれば、評価のうちの何%かがエッセイやプレゼンテーションで残りが試験というものもありました。春学期の大学準備コースを受けていた時から少し大変だなとは感じていたのですが、アカデミックコースに入るとそれまでとはなんだったのかと思うほどの遥かに高いレベルを経験することになりました。

ノッティンガムの環境は整っており、日本で大学生をしていた時の生活とそれほど大きなギャップを感じることもなく過ごしました。私が住んでいた寮はキャンパスから歩いてすぐのところに位置し、近くにはレストランやカフェ、スーパーマーケットもあり、街の中心へはバスで 10 分といった便利な立地です。そのようなロケーションなので、大学のスポーツセンターで運動したり、図書館へ行ったり、買い物へ行ったりするのも簡単でした。私は料理が好きなので、休日にはよく友人たちと大学でスポーツをした後に一緒に食事を作りました。日本料理を振舞おうと思ってうどんを打ったこともあります。イギリスに行くとなるとよく心配される食事についても特に大きな問題はありません。むしろ多様性という意味では、世界中の料理が近所で味わえるというイギリスの食文化には驚かされました。もちろん日本食レストランもありますし、値段は高いですが日本食品も手に入ります。またコース中に長期休暇もあり、友達と国内旅行に行きました。16-25 Rail Card という券を購入すると、電車のチケットが定価より何割か安くなるので、手ごろな価格で電車の旅を楽しむことができます。

私のアカデミックコースが終わったのは2015年の1月の末のことでした。一年弱という短い期間で得たもの、それがどれほど素晴らしく充実したものであったかを振り返りながら部屋の私物を片付けると、空になった部屋は私がノッティンガムに到着した時のこと思い出させました。期待と不安から始まった留学生生活を無事に終える事ができたという達成感を覚えながら、来た時とは違う気持ちでノッティンガムからロンドンへと向かう電車に乗り込みました。こうして今振り返っても、ロンドンのパディントン駅に大きなスーツケースと一緒に降り立ったのがほんの一年前のことだとは信じられません。それほど多くのことが詰まった日々だったのだらうと思います。これを読んでいる学生は、ぜひこの留学制度を利用して現地の大学で授業を受けに行ってみてはどうでしょうか。きっと良い経験ができると思います。

2. 留学の成果について

留学を通して、英語能力の向上はもちろんのこと、それを使ってイギリスのアカデミックな場がどのようなものか知ることができたのは大きな成果だと感じています。私はあまり英語が得意でなく、留学以前はスピーキングやライティングといったアウトプットに消極的でした。しかし留学先で友達が増えるにつれ、また大学準備コースで否応なくライティングを訓練させられた結果、派遣留学が終わる頃にはこれらの能力を伸ばすためにむしろ積極的に使って行きたいという気持ちになりました。さらにイギリスの大学でマネジメントを学んだことで、英語でのエッセイはどのように構築すればいいのか、また専門分野を学ぶ上で物事をどのように見ればいいのかを身につけることができたのは、私にとって大きな収穫であるといえるでしょう。これらに加えたいのは、日本とは全く異なる環境で過ごすことで得られる感覚が身についたことです。このような留学経験の話をするとう英語能力に注目されがちですが、それらと同様かそれ以上にイギリスで置かれる多様性に富んだ環境に価値があるのではないかと思います。留学生同士で共同生活したり、世界から集まってくる学生と机を並べたり、外国人というマイノリティとして他国で暮らしたりすることは、日本で普通の大学生をしているだけではなかなか経験できることではありません。私が普通だと思っていた事が彼らにはそうではなかったり、逆に背景に異なる文化をもっている共通するものがあったりと、留学生としての生活は毎日驚きに満ちあふれています。そのような日々を通して、他者や自分自身について気付かされる事がたくさんありました。この経験ができたのも、多様性の高いイギリスの大学という環境であったからこそではないでしょうか。

3. 反省点について

反省すべき点は、留学以前と留学中にアカデミックな英語をもっと勉強するべきだったということです。1年弱も住んでいれば嫌でも日常会話は出来るようになりますが、派遣留学生であ

る限り最も重要なのはアカデミックな場で使う英語です。そして、これは英語で生活しているからといって伸びるものではありません。私が非常に困難を感じたのは、アカデミックライフの基礎となる論文などを読むためのリーディングのスピードと、期末試験において 90 分で 2 つのエッセイを完成させるライティング能力です。私は読むスピードが遅かったので、読むべき記事を読み終われずに授業に参加したこともありましたが、やはりそれでは効果的な学習は出来なかったと思います。さらに留学を終えて感じたのは、確かに前半の大学準備コースでアカデミック英語は学びましたが、その程度では到底現地の大学生と同じ土俵に立てるレベルに達するエッセイは書けないということです。いま振り返ると、その頃には日常生活に支障がない程度まで英語能力が向上して学外では不便を感じなくなったことに加え、アカデミックコースでは専門分野の勉強をしなければならないこともあり、アカデミックな英語能力の成長が鈍化していたことがわかります。日常生活では困らなくなったからこそ、そしてアカデミックコースにはいったからこそ、より危機感をもって厳しくリーディングやライティングといった英語能力の向上に時間を投入するべきであったと反省しています。

4. 海外留学を目指している学生へのアドバイス

留学はすごく楽しいものです。自分とはバックグラウンドが全く違う人と出会ったり、知らなかった考え方を知ったり、これまで見たこともない世界が見られたりします。仲間と深夜までプレゼンテーションの練習をしたことなどはもちろんですが、留学先で秋学期から住む家が見つからないだとか、アカデミックコース開始日に受付に行ったら自分の名前が入学者リストにないとか、ビザの更新が危うく出来なくなるところだったといったトラブルも面白い経験をしたと思います。そのような留学でしたが、特に私は大学 4 年生をイギリスで過ごすことになっていたもので、関係者の方の多大なサポートがあってこそ可能になったものでした。様々な相談に乗ってくれた留学経験のある先輩や友人、ご指導して頂いた先生、国際交流室、そして共に勉強した留学中の仲間には感謝しきれません。留学したいと考えている学生のみなさんへ伝えたいことはたくさんありますが、なにより強調したいのは、行きたいならすぐに留学の要項を確認し、語学試験を受験するなど、留学のために行動すべきだということです。留学中に何かというよりもその準備が意外と大変なので、少しでも興味が有るのならすぐに国際交流室へ行き、どのような大学にどの程度のスコアで行けるのか、先輩はどのようにしてきたのか、そして諸々の手続きの期限はいつなのかなどといった基本的なことも含めて気になることはとにかく聞きましょう。語学試験についても、もう少し英語が上手くなってから IELTS を受験しようという声は聞きますが、そうではなくとりあえず今すぐ受験登録して勉強を始めて下さい。もう一点アドバイスするなら、留学経験者と実際に会って話をするとどのような人が留学に行くのかをイメージすることができて良いと思います。もちろん歴代の留学報告書が示唆する通り、行き

たいのならばこれから起こる様々なことを覚悟しなければなりません、その価値はきっとあると私は考えています。そして留学に行くのだと決めたら、もう行動あるのみです。頑張ってください。